

教科〔分野〕	技術・家庭〔家庭分野〕	履修学年	第2学年	指導時間	35 単位時間	担当者	黒石 美由紀
使用教科書	新しい技術・家庭 (東京書籍)	補助教材	学習ノート(ハンドノート)	B 食生活と自立 (正進社)			
			学習ノート(ハンドノート)	D 身近な消費生活と環境 (正進社)			
目標	<p>【技術・家庭科】生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。</p> <p>【家庭分野】衣食住などの関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題を持って生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。</p>						
評価の観点	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。	生活の技能	生活や技術についての知識・理解		
趣旨	衣食住や家族の生活などについて関心をもち、これからの生活を展望して家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとする。	衣食住や家族の生活などについて見直し、課題を見付け、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために工夫し創造している。	生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。	生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。	家庭の基本的な機能について理解し、生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。		
評価資料	○定期テスト ○学習ノートの課題への取組み ○ワークシート ○自己評価カード	○定期テスト ○学習ノートの課題への取組み ○ワークシート ○家庭での実践レポート	○定期テスト ○学習ノートの課題への取組み ○ワークシート	○定期テスト ○実技テスト ○作品 ○学習ノートの課題への取組み	○定期テスト ○ワークシート		
指導計画							
月	単元又は題材	時数	学習内容		評価の観点及び評価規準		
4	B 食生活と自立 (1) 中学生の食生活と栄養	2	(1) ー栄養素の種類と働き、中学生の栄養の特徴 ・栄養素のはたらきを知ろう ・食品にふくまれる栄養素を知ろう		生活や技術への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生に必要な栄養の特徴について関心をもち、健康により食習慣について考え、日常生活で実践しようとしている。 ・日常食の調理に関心をもち、調理技術を習得しようとしている。 ・食品や調理用具等の安全と衛生に配慮し、調理実習で実践しようとしている。 	
	(2) 日常食の献立と食品の選び方	2	(2) 日常食の献立と食品の選び方 ・生鮮食品について ・食品の表示を知ろう				
5	(3) 日常食の調理と地域の食文化	2	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回調理実習 (3) ー基礎的な日常食の調理、食品や調理用具等の適切な管理 ・第1回調理実習の計画 		生活を工夫創造する能力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の食生活を点検し、課題を見付け、健康により食習慣などについて考え、工夫している。 ・基礎的な日常食の調理について、調理に必要な手順や時間を考えて計画したり、食品の調理上の性質を生かした調理を工夫したりしている。 	
		2	言語活動 調理実習を班で協力して進めていくための役割分担について話し合い、ワークシートに記録する。				
6		2	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回調理実習 手作りハンバーグと市販のハンバーグの比較をしよう 		生活の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・調理の目的や食材に合った基本的な調理ができる。 ①洗い方 ②切り方 ③加熱調理(煮る、焼く、炒める) ④調味 ⑤盛り付け ⑥配膳 ⑦後片付け ・安全と衛生に留意し、食品や調理用具等の適切な管理ができる。 ①魚や肉などの生の食品 ②ふきん、まな板、包丁などの調理用具 ③調理用熱源 	
		1	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回調理実習の振り返り (2) 日常食の献立と食品の選び方 ・加工食品について 				
7	期末テスト	1	言語活動 調理実習を振り返り、各自の反省をもとに、班で協力して実習を進めていく上で大切なことについて話し合い、ワークシートに記録する。		生活や技術についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の種類と働きについて理解している。 ・中学生に必要な栄養の特徴について理解している。 ・食品の調理上の性質について理解している。 ・加熱調理と調味の要点について理解している。 ・食品や調理用具の安全と衛生に留意した取扱い方について理解している。 	
	(3) 日常食の調理と地域の食文化	2	(3) ーウ食生活に関心をもち、課題を持って日常食又は地域の食材を生かした調理などの活動について工夫し、計画を立てて実践できること。 ・地域の食文化 ・夏休みの課題について				
8		1学期小計 (12)			生活や技術への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の栄養的特質や中学生の1日に必要な食品の種類と概量に関心をもち、食品について調べたり、計量したりしようとしている。 ・中学生の1日分の食事のとり方に関心をもち、必要な栄養素を満たす食事のとり方をしようとしている。 ・地域の食材を生かした日常食などの調理を通して、地域の食文化に関心をもちている。 ・自分や家族の食生活をよりよくすることに関心をもち、課題を主体的にとらえ、日常食又は地域の食材を生かした調理などの計画と実践に取り組もうとしている。 	
9	(2) 日常食の献立と食品の選び方	2	<ul style="list-style-type: none"> (3) ー基礎的な日常食の調理、食品や調理用具等の適切な管理 ・第2回調理実習の計画 		生活を工夫創造する能力	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の1日分の献立について課題を見付け、必要な栄養量を満たすために料理や食品の組み合わせについて考え、工夫している。 ・用途に応じた食品の選択について、収集・整理した情報を活用して考え、工夫している。 ・自分や家族の食生活について課題を見付け、その解決を目指して日常食又は地域の食材を生かした調理などの計画を自分なりに工夫している。 ・日常食又は地域の食材を生かした調理などの実践の成果と課題についてまとめたり、発表したりしている。 	
		2	言語活動 調理実習を班で協力して進めていくための役割分担について話し合い、ワークシートに記録する。				

月	単元又は題材	時数	学習内容	評価の観点及び評価規準			
10	(2) 日常食の献立と食品の選び方 (3) 日常食の調理と地域の食文化	2	・第2回調理実習 和食を作ろう(魚料理とだしのとり方) ・第2回調理実習の振り返り	生活の技能	・身近な食品を選択するために必要な情報を収集・整理することができる。		
			言語活動 調理実習を振り返り、各自の反省をもとに、班で協力して実習を進めていく上で大切なことについて話し合い、ワークシートに記録する。				
		1	(3) イー地域の食材を生かした調理、地域の食文化 (3) ウ食生活に関心をもち、課題を持って日常食又は地域の食材を生かした調理などの活動について工夫し、計画を立てて実践できること。 ・第3回調理実習の計画	生活や技術についての知識・理解	・食品の栄養的特質について理解している。 ・食品群や食品群別摂取量の目安について理解している。 ・食品を食品群に分類したり、計量したりする活動を通して、中学生の1日に必要な食品の種類と概量について理解している。 ・中学生に必要な栄養量を満たす1日分の献立の立て方について理解している。 ・生鮮食品と加工食品の表示の意味と良否の見分け方について理解している。 ①鮮度 ②原産地 ③原材料 ④食品添加物 ⑤栄養成分 ⑥期限表示 ⑦保存方法 など ・食品の選択における観点について理解している。		
			言語活動 調理実習を班で協力して進めていくための役割分担について話し合い、ワークシートに記録する。				
		2	・第3回調理実習 郷土料理を作ろう	生活や技術についての知識・理解	①目的・栄養 ②価格・調理の能率 ③環境への影響など ・地域の食文化の意義について理解している。		
			・第3回調理実習の振り返り ・第4回調理実習の計画				
		2	言語活動 調理実習を振り返り、各自の反省をもとに、班で協力して実習を進めていく上で大切なことを確認し、次回に向けての役割分担について話し合い、ワークシートに記録する。	生活や技術についての知識・理解	①目的・栄養 ②価格・調理の能率 ③環境への影響など ・地域の食文化の意義について理解している。		
			・第4回調理実習 きゅうりの半月切り実技テスト				
		11	期末テスト	1	・第4回調理実習の振り返り	生活の技能	・自分や家族の消費生活について関心をもち、消費の在り方を改善しようとしている。 ・身近な販売方法に関心をもち、その利点と問題点について考えようとしている。
				2	言語活動 調理実習を振り返り、各自の反省をもとに、班で協力して実習を進めていく上で大切なことについて話し合い、ワークシートに記録する。	生活や技術への関心・意欲・態度	・自分や家族の消費生活について関心をもち、消費の在り方を改善しようとしている。 ・身近な販売方法に関心をもち、その利点と問題点について考えようとしている。
12	D身近な消費生活と環境 (1) 家庭生活と消費	1	(1) アー消費者の基本的な権利と責任 ・物資やサービスの選択	生活や技術への関心・意欲・態度	・収集整理した情報を活用して物資・サービスの選択、購入及び活用について考え、工夫している。		
			(1) イー販売方法の特徴、物資・サービスの選択、購入及び活用 ・販売方法と支払方法 ・消費者の権利と責任 ・消費者を取り巻く問題				
		2学期小計 (13)			・物資・サービスの選択、購入及び活用について必要な情報を収集・整理することができる。		
1	D身近な消費生活と環境 (2) 家庭生活と環境 C衣生活・住生活と自立 (3) 衣生活、住生活などの生活の工夫	2	(2) アー環境に配慮した消費生活の工夫と実践 ・私たちの生活と環境 ・環境や資源に配慮した生活	生活の技能	・消費者の基本的な権利と責任、消費者基本法の趣旨について理解している。 ・中学生にかかわりの深い販売方法の特徴について理解している。 ・物資・サービスの選択、購入及び活用に関する知識を身に付けている。		
			言語活動 環境や資源について生活の中でどのような配慮ができるか、実践を交流しあい、自分の生活を見直す。				
		2	(3) イー衣生活又は住生活についての課題と実践	生活や技術についての知識・理解	・自分や家族の消費生活が環境に与える影響について関心をもち、環境に配慮した消費生活を実践しようとしている。 ・布を用いた物の製作に関心をもち、自分や家族の生活を豊かにしようとしている。		
			(3) イー衣生活又は住生活についての課題と実践				
		2	(3) イー衣生活又は住生活についての課題と実践	生活や技術への関心・意欲・態度	・自分や家族の消費生活を点検し、環境に配慮した消費生活について考えたり、実践を通して自分なりに工夫したりしている。 ・衣生活や住生活を豊かにするための製作品を考え、製作計画や方法について自分なりに工夫している。		
			(3) イー衣生活又は住生活についての課題と実践				
		3	学年末テスト	1	・学習のまとめ	生活や技術への関心・意欲・態度	・基礎的な縫製技術を身に付け、布地や部位に応じた縫い方ができる。 ・安全で能率よく、布を用いた物の製作をすることができる。 ①目的に応じた縫い方 ②用具の安全な取扱い
				2	(3) イー衣生活又は住生活についての課題と実践	生活や技術についての知識・理解	・自分や家族の消費生活が環境に与える影響について理解している。 ・環境に配慮した消費生活に関する知識を身に付けている。 ・布を用いた物の製作に関する知識を身に付けている。
				3学期小計 (10)			
				合計 (35)			
先生からのアドバイス	学習の進め方 (学習方法、学習形態等)	<p>○男女それぞれ出席番号の前半と後半で学級を二つのクラスに分け、少人数で授業を受けます。 ○教室は主に被服室で男女混合の4つの班(4～5人)の席で、授業を受けます。 ○週当たり2コマ連続で時間割が組まれており、家庭科の授業を1時間交代または、2時間連続で受け、次の週は技術を2時間受けるというように技術と家庭科は交互で学習していきます。 ○定期テストは年間3回、1、2学期は期末テスト、3学期は学年末テストを実施します。50分のテスト時間内に技術と家庭科の二人の担当の先生がそれぞれ作成した技術と家庭科各50点満点のテストを受けます。 ○技術・家庭科で一つの教科なので、通知表の評価は、技術分野と家庭分野の評価を1:1で合わせたもので出されます。</p>					
	学習上の留意点 受講上の注意	<p>○教室にははじめて来て、作業の時は作業に取り掛かれる用意をし、復習テストが実施される時は前時までに学習したことを復習して覚えましょう。 ○授業道具を忘れず、授業に集中して取り組めるように、よく説明を聞きましよう。(分からないときは、すぐ友達に話しかけるのではなく、先生に質問してください。) ○ノートはきれいに書き、重要ポイントの色分けや、メモなどの工夫をするようにします。プリントは渡されたファイルにきちんととじて無くさないようにしましょう。 ○自己評価表は定期的に書き、授業で学んだことや自分の学習態度を振り返ります。そして、頑張っている仲間や、次の学習に生かしましょう。 ○特別教室はみんなが使う場所です。次に来た人が気持ちよく使えるように、机の上の消しゴムのかすや折れたシャープペンシルの芯、机の下のかさなどごみが無いか確認し、使用した椅子を机に上げて、机の中に忘れ物がないかも確認して帰ります。 ○定期テストの時、夏休み、冬休み後に出す提出物があります。確実に提出しましょう。 ○日頃から家の仕事(洗濯、掃除、食器の準備、片付け、買い物、ゴミ出し、など)は積極的にを行い、家庭科で学習した事を生活に活かしましょう。</p>					